

目的 前報までと同様に、香川県下に現存する古記録から、近世・近代の香川県の食構造の時代による推移および地域における相違をみる。

資料 讃岐国阿野郡北青海村渡邊家。渡邊家は現、香川県坂出市青海町において、室永年間に政所、天明年間に大政所、嘉永6年に大庄屋位などを勤めた。本報の資料は、同家の「家政年中行司記」<sup>(オノ)</sup>、仙事関係記録<sup>(オノ)</sup>、饗応関係記録などとを対象とし、これらに記載された会席献立を抽出、分類して、献立構成、調理法、食品の各項について検討する。

結果 (1)会席献立は嘉永7年(1854)～明治5年(1872)の19年間に15例の記録があり、食事区分では朝食に多く用いられている。(2)会席の献立構成は、汁、飯の四つ碗に向付の膳を中心とした食事の部および吸物以下肴物の酒事の部から成り、各々の菜教、肴教はある程度自由で流動的である。下記に会席献立の代表的2例を挙げる。(3)酒事の部は、吸物以下肴物から肴物の肴物を用いるなど、食事の部に比して比重が高く、酒宴を中心とした饗応の色が濃い構成である。(4)献立名、料理内容、供呈形式などに本膳、会席の両様式がみられ、過渡期の構成と考えられる。(5)会記により膳碗の漆器、鉢の陶磁器など「食」をめぐる周辺文化の質の高さ、層の厚さ伺える。

(1) 向附 汁 飯 [引盃酒出] 蓑物 吸物 [提重] 取肴 進肴 進肴 進肴  
[湯盃] 香の物 湯 菓子 濃茶 薄茶 惣菓子 干菓子

(2) 向 汁 麦飯 [引酒] 吸物 取肴 蓑物 香の物 湯 菓子 茶  
[枝御酒] [盆組] 平鉢 鉢 井 茶碗物 井 大平 鉢 小鉢 後吸物 蓋鉢